

① 「食の拠点」とかち強化プロジェクト

【概要・目的】

生産基盤の強化による食料生産・供給拠点の形成や担い手の育成・確保などを図り、我が国における食料供給地域としての地位をさらに揺るぎないものにするとともに、こうした十勝の優位性を活かし、農商工連携等による十勝産食材の付加価値向上や海外輸出も含めた販路の拡大を進め、強いブランド力をもった食産業を構築していきます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- ・【経営体質強化】:①高品質・高付加価値・低コスト化のための施設整備、②国際競争力強化のための高収益化取組の総合的支援、③クリーン農業の普及と取組促進、④アライグマ農業被害対策の実施など
- ・【人材育成】:①農業高校の就農促進のためのPR、②農業研修生受け入れや情報交流会、新規就農者対象ゼミナールなどの各種イベントの開催など

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

- ・【十勝ブランド化】:①業界団体・海外ニーズに対する調査・フェア・報告会の開催、②十勝ブランド事業支援委員会へのオブザーバ参加など
- ・【大都市圏消費拡大】:①「十勝イタリアノマンジャレ」首都圏開催に向けたサポート、②包括連携協定締結企業等との連携及びPR、③専門学校の食に関する研修旅行誘致など
- ・【ネットワーク構築】:①6次産業化サポートセンターとの連携、②「とかち6次産業化検討部会」、「とかち海外展開支援ネットワーク」の設置による情報共有及び共通課題の解決、③「食と農の景勝地」十勝協議会と連携したインバウンド受け入れ対応など

今年度の主な取組（平成30年度）

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- ・【経営体質強化】:①高品質・高付加価値化低コスト化のための施設投資、②国際競争力強化のための高収益化取組の総合的支援、③バイオガスプラントから生産される消化液の畑作利用の検討、④「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画、⑤アライグマ農業被害対策の実施など
- ・【人材育成】:①農業高校と連携した就農促進、②農業青年や新規就農者を対象としたゼミナールや各種イベントの開催

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

- ・【十勝ブランド化】:①十勝産品の知名度向上やブランド化の推進を目的に業界団体等と連携してフェア等の開催、②十勝産品の消費・販路拡大を促進するため、インバウンド客に向けた効果的な販売モデルを実施③十勝産ワインの品質向上とブランド化を目指す「ワインアカデミー十勝」を設立し、各種セミナーを開催
- ・【大都市圏消費拡大】:①包括連携協定締結企業等との連携及びPR、②専門学校の食に関する研修旅行誘致など
- ・【ネットワーク構築】:①6次産業化サポートセンターとの連携、②国際水準GAPの実施、第三者認証の推進

今後の取組を進める上での主な課題

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- ・地域の営農戦略に基づく施設、機械の整備を図っていく上で、要望に応じた国費予算の確保が必要
- ・産地の高収益化に向けた地域の取組の支援が必要
- ・農業者の取組の定着、拡大、消費者の認知度向上、理解の促進に向け、継続した取組が必要※
- ・バイオガスプラントの適切な運営方法やプラントから生産される消化液の畑作利用を含めた活用方法の確立
- ・乳牛頭数の増加や家畜ふん尿の性状変化等による、堆肥化処理の困難化や労力増加
- ・一次産業に対する理解促進など若者が職業として1次産業を選択できる環境づくりが必要
- ・管内青年農業者の活動の活発化や相互の技術研鑽を図るなどの情報交流機会の充実が必要
- ・効果的なアライグマ捕獲手段の確立

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

- ・十勝の生産者、民間企業、関係団体等が一体となれるような十勝ブランドの確立に継続した取組が必要
- ・十勝地域の消費額を増やすため、インバウンド客向けの商品開発や利用しやすい購入方法の確立のほか、ワインを核とした滞在型観光へのシフトなどが必要
- ・十勝産品に対する認知度が低いことが課題であることから、十勝産品や十勝ブランドの更なるPRが必要
- ・国際水準GAPの実施、第三者認証取得の推進

※YES!Clean登録:現状395集団 ⇒ 目標H31年度 480集団
YES!Clean認知度:13%[平成24年度環境調和型「農産物可能性調査」]

【KPIの状況】

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	H31	H32(目標)
地域の認証・登録制度の認証・登録品目数	179品目 (H27)	179品目 <進捗率> 90%	174品目 <進捗率> 87%	170品目 <進捗率> 85%			200品目 (H32)
食品工業の付加価値額	876億円 (H26)	1,042億円 <進捗率> 104%	963億円 <進捗率> 96%				1,002億円 (H32)

「食の拠点」とかち強化プロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

○ 安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化

- ・ 農業生産の高品質・高付加価値化や低コスト化の推進及び自給飼料生産拡大、循環型社会の構築のために必要な施設整備等を支援(強い農業づくり交付金、産地パワーアップ事業:国費)
- ・ 国際競争力の強化を図るため、地域の営農戦略に基づく産地の高収益化に向けた取組を総合的に支援(産地パワーアップ事業:国費)
- ・ 畜産経営の収益力の向上や飼料生産組織の経営高度化、畜産環境問題への対応など、畜産クラスター計画に基づく地域の中心的な経営体等が行う施設の整備等を支援(畜産クラスター事業:国費)
- ・ 消化液の畑作利用について、実証ほ場等による散布実証を実施。バイオガスプラント設置事業者等との情報交換の場を設け、課題の把握等を行うとともに、設置事業者の運営内容を把握し、適切な運営方法を検討(道(振興局))
- ・ 家畜ふん尿を原料とするバイオガスプラントにより生成した再生可能エネルギーの利活用に関する調査研究及び実証を行う「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画(市町村、農業関係団体、商工関係団体、大学、金融機関、道(振興局))
- ・ 「アライグマ対策会議」開催による市町村等との情報共有(道(振興局))

○ 安全・安心な食の提供に向けた取組の促進

- ・ クリーン農業の一層の普及拡大に向けた「選ばれるクリーン農産物ブランディング事業」(事業主体:道、道クリーン農業推進協議会)と連携した、消費者理解の促進(イベント時における行政PRコーナーの設置)(道(振興局))
- ・ 「北海道有機農業推進計画(第3期)」(H29~)を踏まえた取組推進、イベント時における行政PRコーナーの設置(道(振興局))

○ 1次産業における担い手の育成・確保・定着

- ・ 農業高校と連携した出前授業や農大との連携事業による農業高校生の就農促進(道(振興局))
- ・ 農業研修生受入や指導に係る各種研修会等の開催による指導農業士・農業士の資質の向上と活動の活性化(道(振興局))
- ・ 新規就農者を対象に農業技術を学ぶ農村ゼミナール等の開催(道(振興局))

○ 地域営農支援システムの構築など産地の収益性向上に向けた取組の促進

- ・ 畜産クラスター事業の効果的な計画の実施に係る助言・指導及び実施地区に対する指導(道(振興局))

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

○ 十勝産農水産物の付加価値向上やブランド化に向けた取組の促進

- ・ 十勝ブランド認証機構による十勝産原材料を活用した食品である十勝ブランド認証品の適正の確保、公平性を保つため「十勝ブランド事業支援委員会」へオブザーバー参加(道(振興局))
- ・ 十勝産品の知名度向上やブランド化の推進を目的に業界団体等と連携したフェア等の開催(道(振興局)、水産関係団体等)
- ・ インバウンド客を主なターゲットに、十勝産品の販路拡大の仕組みや十勝の食・観光資源について、海外へのSNS発信、国内物産展及び道の駅でのPRなど、国内外に広く周知(道(振興局))
- ・ NHK連続テレビ小説「なつぞら」を最大限活用の上、関西・首都圏の百貨店等での物産展において、十勝の食を売り込みながらの観光資源PRの実施(道(振興局))
- ・ 将来的にツーリズムなどワインを核とした滞在型観光の発展を目指し、ブドウ栽培・醸造技術等の向上のためのセミナー実施、道外のワイン関係イベント出展による十勝産食材やワインの魅力の発信(道(振興局))

○ 大都市圏における十勝産食材のPRや消費拡大に向けた取組の推進

- ・ 「十勝イタリアノマンジャーレ」の企画・運営サポートの実施(実行委員会形式)
- ・ 首都圏において包括連携協定締結企業と連携し、イベント等への出展を通して十勝の食や観光を広くPR(道(振興局)、水産関係団体等)

○ 6次産業化や農商工連携、輸出拡大に向けた関係者のネットワークの構築

- ・ 農業者等からの相談への、道が委託をしている6次産業化サポートセンターと連携した対応(国費:食料産業・6次産業化交付金の活用を含めた相談対応)(道(振興局))
- ・ 国際水準GAPの実施、第三者認証取得の推進(道(振興局))
- ・ とかち海外展開支援ネットワークに参画。各支援機関と海外展開施策の情報共有(市、民間、道(振興局))

② 「ひがし北海道」広域観光プロジェクト

十勝・オホーツク・
釧路・根室連携地域

【概要・目的】

北海道新幹線の開業や北海道横断自動車道(道東道)の更なる延伸、外国人観光客の増加や旅行形態の多様化といった様々な時代の流れを的確に捉え、道東の優れた自然環境をはじめとする多彩な観光資源、広大な畑作酪農地帯や豊富な漁業資源など各地域個々の魅力を一層向上させるとともに、道東4地域間連携による相乗効果を高め、道東地域全体への誘客促進を図っていきます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

- 【道東関係者ネットワーク構築】:①道東4振興局連携推進検討会の開催など
- 【ひがし北海道ブランド発信】:①道央圏、道外及び海外への観光プロモーションの実施、②国内富裕層向けの長期ツアー実施や滞在型観光モデル構築など
- 【観光客誘致のための地域連携】:①広域周遊ルート形成促進事業事務局の連携調整など

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

- 【道東交通モード間・事業者間連携促進】:①観光部門と連携した道東自動車道の利用促進プロモーションなど
- 【5空港連携強化】:①路線維持プロモーション、②航空会社、国交省への要請など
- 【高規格道路利用促進】:①期成会の重点要望事項として全線早期完成の要請
- 【新幹線効果波及推進】:①北海道新幹線Instagramフォトコンテストの開催

今年度の主な取組(平成30年度)

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

- 【道東関係者ネットワーク構築】:①道東4振興局連携推進検討会の開催など
- 【ひがし北海道ブランド発信】:①関西や道央圏などにおける観光プロモーションの実施、②国内富裕層向けの長期ツアー実施や滞在型観光モデル構築など
- 【観光客誘致のための地域連携】:①広域周遊ルート形成促進事業事務局の連携調整など

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

- 【道東交通モード間・事業者間連携促進】:①「シームレス交通戦略推進会議」の設置・開催、②JRから路線バスへの円滑利用促進など
- 【5空港連携強化】:①路線維持プロモーション、②航空会社、国交省への要請など
- 【高規格道路利用促進】:①期成会の重点要望事項として全線早期完成の要請
- 【新幹線効果波及推進】:①道民利用促進の気運醸成を図る事業の実施など

今後の取組を進める上での主な課題

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

- 道内の観光入込客数が道央圏に集中していることから^{※1}、誘客の更なる促進に向けた4地域一体となった取組や更なる効果を求めて、プロモーションの手法等の検討・再構築が必要
- 十勝の観光入込客数の宿泊客や道外客の割合は、道内他地域と比較すると、低い傾向にあることが課題となっているため^{※2}、十勝の潜在的な観光の魅力を顕在化させ、十勝の知名度アップをはじめ、誘客や長期滞在等の促進に向け、地域一体となった取組が必要

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

- 外国人観光客に向けた鉄道からバス・タクシー等への乗継案内等がないため、案内表示等の基盤整備や多言語化が必要
- 交通弱者の増加に対し、公共交通の利便性向上や利用促進が必要
- 道内空港の一括民間委託に係る動向との調整が必要
- 道東道の早期全線開通へ向けた地域全体での連携が必要
- 道南から道東への二次交通の検討が必要

【KPIの状況】

※1道央55.3% 道東4振興局20.2% H29年度道調べ

※2宿泊客:道南32.2% 十勝15.3%、道外客:道南46.9% 十勝22.2% H29上半期道調べ

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	H31	H32(目標)
道東地域への観光入込客数	2,620万人(H25)	2,826万人	2,704万人	2,948万人			2,987万人(H32)
		<進捗率> 95%	<進捗率> 91%	<進捗率> 99%			
		1,035万人	956万人	1,042万人	上期実数 708万人(対前年同期比99%)		1,046万人(H32)(十勝地域)
		<進捗率> 98%	<進捗率> 91%	<進捗率> 99%			

「ひがし北海道」広域観光プロジェクト

十勝・オホーツク・
釧路・根室連携地域

次年度の取組(平成31年度)

【施策展開】

■「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

○道東地域における広域観光の推進に向けた関係者ネットワークの構築

- ・道東4振興局連携推進検討会の開催(道(道東4振興局))

○地域資源を活用した周遊ルート開発、合同プロモーション等による一体的な情報発信

- ・道央自動車道サービスエリア等において、道央圏からひがし北海道への誘客促進のためのプロモーションの実施(道(道東4振興局))
- ・道東地域への誘客促進のため、道東4振興局が連携し、関西など道外において合同観光プロモーションの実施(道(道東4振興局))
- ・NHK連続テレビ小説「なつぞら」を最大限活用の上、関西・首都圏の百貨店等での物産展において、十勝の食を売り込みながらの観光資源PRの実施(道(十勝総合振興局))
- ・関西圏等訪問時にあわせ、関西圏等のメディアや旅行会社等を直接訪問し、十勝の食・観光ツアーの売り込みの実施(道(十勝総合振興局))
- ・管内市町村や関係団体と協力し、十勝管内のインスタ映えするスポット等を取りまとめたマップ等を作成し、関係者及び観光客によるSNSによる情報発信・拡散キャンペーンの展開(道(十勝総合振興局))

○「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」など観光客誘致に向けた地域の取組との連携推進

- ・広域周遊ルート形成促進事業における地域事務局として連携調整の実施(プライムロードひがし北・海・道推進協議会)

■交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

○道東地域における交通モード間・事業者間の連携促進

- ・「シームレス交通戦略推進会議」の開催、会議での議論を踏まえたモデル事業の実施(道(本庁、十勝総合振興局)、市町村、民間)
- ・JRから路線バスへの円滑利用促進へ向けた取組の実施(道(道東4振興局))
- ・道のバス事業活性化モデル事業の一環として、管外からの観光客を対象に十勝管内のバスが乗り放題になるチケット「VISIT TOKACHI PASS」の発売(道(十勝総合振興局)、民間)

○ひがし北海道5空港(帯広・釧路・中標津・女満別・紋別)連携による取組の強化

- ・地方空港路線維持確保プロモーション、各航空会社に対する要請活動、国(国土交通省)への要請(道(本庁)、市町村、民間)

○北海道横断自動車道(道東道)、帯広・広尾自動車道の利用促進に向けた取組の推進

- ・期成会の重点要望事項として北海道横断自動車道(道東道)、帯広・広尾自動車道の早期完成を要請(道(十勝総合振興局))

○北海道新幹線の開業効果を道東地域に波及させるための取組の推進

- ・東北との連携推進及び道民利用促進の気運醸成を図る事業の実施(道(本庁))

③ 「次世代先進産業」とかちチャレンジプロジェクト

十勝連携地域

【概要・目的】

道内有数の賦存量を誇るバイオマス資源を活かした再生可能エネルギー等の利活用による新たな産業の創出や農業・農村の活性化、今後成長が期待される航空宇宙関連分野や大規模経営が展開されている十勝の農業におけるICT化の取組など、こうした十勝の優位性を活かした先進的な取組を一層促進することにより次世代に向けて先駆的で魅力ある地域づくりを進めます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進

- ・【再生可能エネルギー情報発信】:①環境学習体験会実施、②先進的施設視察・発信、③市町村へのバイオマスアドバイザー派遣など
- ・【新エネルギーを担う人材、事業体育成】:①帯広技術専門学校(太陽光発電協会認定研修期間として道内初登録)のPRなど
- ・【水素エネルギーの利活用促進】①鹿追町水素エネルギー研究会に参加など

■新たな価値を生み出す科学技術などの活用

- ・【大樹町多目的公園効果的活用】:①理系高校生向け及び関連産業立地促進セミナーの実施、②航空宇宙相談支援など
- ・【農業ICT化取組】:①トラクタの自動操舵・可変施肥システム導入促進など
- ・【地域材ブランド化】:①SGEC認証制度※、地域材利用拡大に向けた説明会や一般向けセミナーの開催

今年度の主な取組(平成30年度)

■豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進

- ・【バイオガス利活用の調査研究等】:「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
- ・【再生可能エネルギー情報発信】:①バイオマスや水素エネルギーに関するパンフレットの作成・HPでの公開やイベント配布等の情報発信、②バイオマスアドバイザー派遣事業の実施など
- ・【新エネルギーを担う人材、事業体育成】:①帯広高等技術専門学院(太陽光発電協会認定研修機関として道内初登録)のPR、②人材事業体の育成など
- ・【水素エネルギーの利活用促進】:①鹿追町水素エネルギー研究会に参加、②市町村・事業者からの水素関連の照会等に対する相談対応など

■新たな価値を生み出す科学技術などの活用

- ・【大樹町多目的公園効果的活用】:航空宇宙ビジネスへの理解促進や人材育成に向けたセミナーの実施など
- ・【農業ICT化取組】:①トラクタの自動操舵・可変施肥システム導入促進、②女性農業者等へのスマート農業技術の理解促進
- ・【地域材ブランド化】①SGEC認証制度に関する勉強会の実施②SGEC認証制度に関する普及啓発活動の実施、③木材加工整備の整備に対する支援、④地域材普及PRなど

今後の取組を進める上での主な課題

■豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進

- ・新たなバイオガスプラントの整備にあたり、送電網容量の問題により国の固定価格買取制度が活用できない
- ・十勝の特性を活かした、地産地消型を含めた再生可能エネルギーの導入促進が重要
- ・イベント等における集客力増加のため、環境学習等への関心を高めるための取組が必要
- ・PV施工技術者認定研修は、道立帯広高等技術専門学院の電気工学科のカリキュラムに組み込まれているが、今後も、受講希望ニーズに対応した内容としていくことが重要
- ・水素エネルギー普及に向け、設備等の技術開発やコスト低減など、実証実験を通じた利活用の検討のほか、水素社会実現への住民理解や気運醸成等が必要

■新たな価値を生み出す科学技術などの活用

- ・十勝管内におけるこれまでの宇宙関連の取組を、地元の気運醸成を含め、より効果的に実施及び支援していくことが必要
- ・農業の大規模化に伴い、一層の高度化・省力化技術が必要
- ・SGEC認証材の安定的な供給に向けた体制づくりを推進するとともに、同制度に関する一般消費者の理解の浸透を図ることが必要

【KPIの状況】

※森林認証制度の一つ。「一般社団法人緑の循環認証会議」が管理・運営。
十勝管内では「とかち森林認証協議会」や道有林(十勝管理区)などが取得。

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	H31	H32(目標)
新エネルギーの導入状況 (発電分野の設備容量)	117,809kW (H26)	173,522kW <進捗率> 68%	189,846kW <進捗率> 75%	211,404kW <進捗率> 83%			253,846kW (H32)
先進技術関連事業所立地数	13件 (H26)	13件 <進捗率> 76%	13件 <進捗率> 76%	13件 <進捗率> 76%			17件 (H32)

「次世代先進産業」とかちチャレンジプロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

次年度の取組(平成31年度)

■豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進

○バイオガス利活用の調査研究等

- ・ 家畜ふん尿を原料とするバイオガスプラントにより生成した再生可能エネルギーの利活用に関する調査研究及び実証を行う「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画(市町村、農業関係団体、商工関係団体、大学、金融機関、道(振興局))

○各種普及啓発や取組状況等の情報発信

- ・ 「バイオガス取り組みマップ」(平成30年度作成)のホームページ等での周知(道(振興局))
- ・ バイオマスに関する相談対応(道(振興局))

○PV施工技術者等の新エネルギーを担う人材、事業体の育成・確保

- ・ PV施工技術者制度に基づく認証研修機関として、在学生を対象への研修の実施(道立帯広高等技術専門学院)
- ・ 道立帯広高等技術専門学院の取組に対する認知度向上のため、イベント等において広く周知(道(振興局))

○水素エネルギーの利活用促進参画

- ・ 「家畜ふん尿由来水素を利用した水素実証事業」検討会への参画
- ・ 「バイオガス取り組みマップ」(平成30年度作成)の活用による、バイオガス由来の水素利用の地域住民・関係機関への啓発
- ・ 市町村や管内事業者からの水素関連の問合せに対する一次窓口としての相談対応(道(振興局))

■新たな価値を生み出す科学技術などの活用

○航空宇宙に関する研究・実験拠点化に向けたPRなど大樹町多目的航空公園の効果的な活用

- ・ 航空宇宙関連ビジネスの経済波及効果や理解促進に向けたセミナーを実施するとともに、各種イベントにおいて十勝の航空宇宙関連の取組のPRを実施(道(振興局)、関係機関)
- ・ 航空宇宙関連ビジネスに係る相談窓口を設置・運営(道(本庁、振興局)、関係機関)

○トラクターの自動操舵システムや可変施肥システムの普及推進など、農業分野へのICT化の取組の展開

- ・ 生産から出荷の各段階における先端技術の導入・分析を通して、最適な技術体系を確立するため、必要な技術指導・助言、普及の推進(国、道(振興局))
- ・ ICT技術の普及のため、農協職員等への実習・基礎研修の実施(道(農業大学校))
- ・ スマート農業技術の効果的活用による労働力削減や省力化との取組の推進(道(振興局))

○森林認証制度や木材の加工・乾燥技術の向上など地域材のブランド化による利用拡大

- ・ とかち森林認証協議会の会員等を対象とした勉強会の開催(十勝流域森林・林業活性化センター)
- ・ SGEC認証制度に関する理解の浸透を図るための普及啓発活動の実施(道(振興局))
- ・ 公共施設等でのSGEC認証材使用に向けた地域の取組に対する支援(とかち森林認証協議会)
- ・ 製材施設や乾燥施設等の整備に対する支援(道(振興局))
- ・ 十勝産木材の住宅分野での利用を拡大するための普及啓発活動の実施(とかちの木で家をつくる会)

④ 「多様な人材の活躍」とかち支援プロジェクト

十勝連携地域

【概要・目的】

女性の就業率の高さなど十勝の地域特性を踏まえた女性の社会進出や起業化への支援、また、50代から60代のシニア層の転入が石狩地域に代表される都市部に比べ少ないという地域の特徴を捉え、アクティブシニアと言われる健康で活動的なシニア層をターゲットにした移住・交流の促進により、若い世代はもとより地域の産業・社会を支える女性やシニア世代を含めた幅広い層の人材を育成・確保するための取組を進めます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組

- ・【キャリアデザイン支援】：①女性活躍促進企業等の情報発信など
- ・【ネットワークづくり支援】：①異分野で活躍する女性の交流会を開催、②女性活躍に関するポータルサイト活用など
- ・【女性視点ビジネスモデル創出】：①ビジネスモデル支援セミナー・ワークショップ開催
- ・【女性農業者活躍場づくり支援】：①男性側の理解促進を図る研修会やセミナー開催
- ・【子育て環境整備】：①施設型給付費用等の支給費用一部負担など
- ・【人材活躍等】：①子どもの居場所づくり支援など

■アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進

- ・【ニーズ等の把握】①学びのニーズ調査やメニュー調査、②ベルソナ調査(町)など
- ・【ネットワーク構築】：①「十勝アクティブシニア移住交流促進部会」開催など
- ・【メニュー開発・人材育成】：①上記部会におけるメニュー開発に向けた検討など
- ・【情報発信】：①「学びのメニュー」についてのPR動画作成、②Web媒体等の活用によるシニア層へのPRなど

今年度の主な取組（平成30年度）

■女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組

- ・【キャリアデザイン支援】：①女性活躍促進企業等の情報発信など
- ・【ネットワークづくり支援】：①異分野で活躍する女性の交流会を開催、②女性活躍に関するポータルサイト活用など
- ・【女性視点ビジネスモデル創出】：①ビジネスモデル支援セミナー・ワークショップ開催
- ・【女性農業者活躍場づくり支援】：①次世代リーダー育成のためのセミナー等開催、②女性農業者へのスマート農業技術普及促進
- ・【子育て環境整備】：①施設型給付費用等の支給費用一部負担など
- ・【人材活躍等】：①「人生劇場紙芝居」上演会開催、②子ども食堂運営者との意見交換会開催など

■アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進

- ・【ニーズ等の把握】：①自町に特化したニーズ調査(6町)
- ・【ネットワーク構築】：①「十勝アクティブシニア移住交流促進部会」開催など
- ・【メニュー開発・人材育成】：①試作メニュー体験ツアーの実施、②「生涯活躍かみしほろ塾」開校(町)
- ・【情報発信】：①動画、Web等によるPR、②フェア等SNSによる情報発信(町)など

今後の取組を進める上での主な課題

■女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組

- ・女性活躍促進のため、十勝で活躍する女性の先進事例の情報発信が重要
- ・管内で活躍する女性農業者やそのグループを中心とした、次世代につながるリーダー育成が必要
- ・地域の多様な人材が、年齢、障がいの有無などの事情にかかわらず、周囲の共感を得ながら、誇りを持って暮らし続けることができる地域社会の形成及びそれを支える人材の育成が必要
- ・子ども食堂の運営には、ボランティアや食材の確保、地域住民の理解が必要

■アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進

- ・市町村レベルにおけるニーズの把握が必要
- ・事業の着実な推進のため、管内市町村、関係団体、民間事業者等との一層の連携・協力が必要

【KPIの状況】

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	H31	H32(目標)
女性キャリアデザインロールモデル輩出数(累計)		8件 <進捗率> 16%	21件 <進捗率> 42%	30件 <進捗率> 60%			50件 (H31)
ちょっと暮らし滞在日数	7,787日 (H26)	7,681日 <進捗率> 65%	9,637日 <進捗率> 82%	10,456日 <進捗率> 89%			11,758日 (H32)

「多様な人材の活用」とかち支援プロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

次年度の取組(平成31年度)

■女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組

○女性活躍への支援

- ・先進事例の情報発信

○女性農業者の活躍の場づくりの支援

- ・女性農業者の次世代リーダーの育成のため、有識者を招いたセミナー等開催による意識向上(道(振興局))

○安心して子どもを育てることができる環境の整備

- ・子どもが健やかに成長するように支援するため、市町村が支弁する施設型給付費等の支給に要する費用の一部を負担(道(振興局))
- ・子ども・子育て支援の着実な推進を図るため、市町村が策定する市町村子ども・子育て支援事業計画に基づく措置のうち、地域子ども・子育て支援事業(13事業)に要する経費を補助(道(振興局))
- ・放課後児童の健全育成のため、放課後児童クラブの運営の促進(道(振興局))

○多様な人材の活躍等

- ・高齢者が誇りを持って暮らし続け、周囲もそれに共感しながら潤いと活力ある地域社会形成の機運向上に資する「紙芝居作成技術を持つ人材の育成」(道(振興局))
- ・障がいの有無にかかわらず誰もが活躍できる社会の実現に資する「障がいの特性に応じた衣服の製作技術を持つ人材の育成」、「障がい者ファッションショーの開催」による、障がいのない方の障がい特性への理解促進(道(振興局))
- ・子どもの貧困に関する有識者や子ども食堂の実践者を招聘した「フォーラム開催」による、地域住民の子どもの貧困への理解促進(道(振興局))

■アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進

○アクティブシニアに対する学びのニーズ等の現状把握

- ・関係機関と連携し、引き続きニーズの把握に努める(道(振興局))
- ・自町に特化した最新のニーズ調査を実施(音更町、土幌町、池田町、本別町、足寄町、陸別町)

○学びを活かした移住・交流促進に向けた関係者ネットワークの構築

- ・「十勝アクティブシニア移住交流促進部会」を開催し、構成員各位の取組状況や管内共通の課題・現状等について情報共有を図る(道(振興局)、管内市町村、民間)

○学びに関するメニュー開発や学びを担う人材の育成・確保

- ・学びや体験メニュー等の拡充を図るとともに、メニューを担う人材の育成を推進するため、メニュー実施事業者や大学教授等の有識者を集め、セミナー等を開催(道(振興局))
- ・「生涯活躍かみしほろ塾」の総合講座等の実施(上士幌町)

○継続的な取組に向けたフォローアップ体制の構築や効果的な情報発信

- ・地方創生関係交付金により作成したWebサイト及びPR動画について、シニア層に対して効果的に配信(道(振興局))
- ・複数町が連携して移住体験メニューなどを提案し、プロモーションを行うことで、学びや体験メニュー、移住環境等といった受け入れ体制の充実ぶりをPR(道(振興局)、管内6町)
- ・東京交通会館内の「ふるさと回帰支援センター」において、とかち東北部3町の圏域ブースを出展し、効果的な情報発信、プロモーションを実施(本別町、足寄町、陸別町)